



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2008

6月30日号

109
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559) 1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

求められるニーズに応えるには



副会長 齋藤 康雄

5月の福島県放射線技師会総会、6月の日本放射線技師会定期総会も終わり、新年度の活動が事実上スタートした。昨年末の日本放射線技師会の臨時総会以来改正公益法人法に基づく運営が取り入れられて今回の総会に至っている。移行期のため、まだ諸規定を含め周知が行き届かないことや、旧定款で選ばれている理事や代議員数が合わないなど多少の調整も生じているが、代議員は2年間の任期制になるなど、新公益法人としての体制作りが進行している。

今年度の総会は、事前に熊谷会長が理事に立候補をしないと退任を表明しているからなのか、昨年のような紛糾はなかったが、理事が議長を務めるなど執行部がいままでに例のないような対応で事態を收拾しようとしている様子が窺えた。平成19年度事業報告・決算、平成20年度事業案・予算が賛成多数で可決され、最後に教育センターの存続について議論された。20年が経過し老朽化しているため維持に多額の経費が掛かることや、交通の利便性が悪いことなど、答申通り閉鎖して処分することが決議された。総会の後、役員選挙で理事の選出になったが、中日本地域で定員2名のところ3名の立候補があったため選挙になり、他地域の理事13名、及び会員の理事会推薦理事9名、会員外の理事会推薦理事8名、監事2名（会員1名、会員外1名）は、定員内なので信任投票となった。不信任票がいずれも投票数の1/2を越えないため信任され、理事32名監事2名が確定し、予定を1時間オーバーし総会が終了した。今後開催される理事会において、会長、副会長が互選されることになるが、理事会での会長選出や、外部理事の参画による執行部体制は今までになかったことであり、今後にどのような形で会運営に反映していくのか期待される場所である。

これらの議決内容は新定款に基づくものである。日本放射線技師会への期待と福島県放射線技師会への期待が今まではイコールに近かったものが、今後はその役割が少し違ってくると捉えた方が分かりやすいかもしれない。思うに、どちらも法人格を持った別々の組織になるが、診療放射線技師としての職業の維持と向上を考えると、どちらも必要不可欠な組織になってくると思われる。会員の利益と、会としての都合に乖離が生じないような組織運営をするのであれば、一方だけでは不十分で、会員の期待に応えるには地区（福島県）放射線技師会組織活動だけでは難しい面もあり、資格などの放射線技師の根幹に関わる場所の法的な改正への取り組みや処遇の改善や向上は、職域団体として上部機関である日本放射線技師会の役割の範疇であり、取り組みに期待したい。一方、目に見える様な形で直接的な活動を展開し、地域の医療や検診事業に貢献するためのきめ細かなニーズに合った研鑽の場を提供するのは、各地区の放射線技師会ということになるのではないだろうか。それぞれの役割に対する会員の期待の度合いからすれば車の両輪の様なもの、調和を取りながら前進できればそれに越したことはない。

いつまで経っても課題が尽きないのは進歩している証なのかもしれないが、求められるニーズと医療環境の変革に対応できる組織にしたいものである。

第61回(平成20年度) 社団法人 福島県放射線技師会総会議事録

1、開催日時：平成20年5月17日16時30分

1、開催場所：郡山市熱海町熱海 清稜山倶楽部

1、会員総数：617名

1、出席者数：444名（うち委任状出席者404名）

総会運営委員長草野義直より、本総会は会員総数617名中444名の出席があり、有効に成立する旨の報告があった後、議長選出に入った。

議長には会員幕田節男及び佐藤靖芳が選出され、議長は議事録署名人に会員中里史郎及び本間妙を指名する旨提案があり諮ったところ、満場一致により承認された。

ついで下記議案について審議に入った。

1、議題

第1号議案 平成19年度事業報告について

会長片倉俊彦から会員のメリットや実績が明確となるよう、会員証の作成、ホームページの充実に取り組んだ等詳細な説明がされた後、議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致異議なく可決承認された。

第2号議案 平成19年度決算報告について

担当理事馬場栄二から、支部助成金の項目が無くなり、各事業内容に振り分ける決算方法に変えたが、順調に収支された等詳細な説明がされた後、議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致異議なく可決承認された。

第3号議案 平成19年度監査報告について

監事嶋田峻二より監査の結果は適切な会計処理がなされていることの報告があり、議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致異議なく可決承認された。

第4号議案 平成20年度事業計画案について

会長片倉俊彦より、平成20年度事業計画案について説明がなされた。

福島県放射線技師会を新法基準での公益法人化するための準備を進めていきたい。そのため、講習会については福島県放射線技師会として会員の参加の記録を残し、会員にメリットをつけ、非会員にも入会勧誘を行う。公益法人化するためにも組織率を上げていかなければならない。総務委員会を通じ未入会者の把握、ネットワーク委員会を通じて情報公開、生涯教育委員会を通じて福島県放射線技師会独自の教育システムの構築の検討、福島県緊急被曝医療防災対策委員会への積極的な協力を通じて地域住民に直接見える活動を進める等、詳細な提案説明がされた後、議長は質疑を議場から求めたところ、質問・意見なく、議長は議決を諮ったところ満場一致異議なく可決承認された。

第5号議案 平成20年度予算案について

担当理事馬場栄二より、平成20年度予算案について詳細な提案説明がなされた。議長は質疑を議場から求めたところ、会員草野義直より支部学術助成金がなくなったのかと質問があり、会長片倉俊彦から前年度までの支部学術助成金は学術研修費に割り振っており、支出額に変更がないことが説明され了承された。つぎに、会員堀江常満より学術委員会専門分科会予算が90万円に増額された理由について説明が求められ、副会長鈴木憲二より支部に支給する学術費相当分が含まれると説明され了承された。つぎに、会員佐藤美千男より研究会参加費等について会員と非会員に差額を設定する方針があるかと質問があり、会長片倉俊彦から本会が共催の研究会は会員のメリットとして差額を考えているが、公益性を考慮すると非会員を拒むことが出来ないため検討すると回答があり了承された。他に質問・意見がなく、議長は議決を諮ったところ満場一致異議なく可決承認された。

第6号議案 その他

会長片倉俊彦より、名誉会員の推戴についての説明ならびに、日放技会費の直接納入についての説明がなされた。名誉会員は平成19年秋の叙勲で受勲された会員根本壽男を名誉会員に推戴したいと提案され、議長は議決を諮ったところ満場一致異議なく可決承認された。

以上をもって議案全部の議事を終了したので議長は午後6時10分閉会を宣言し解散した。上記の決議を明確にするため、議長、議事録署名人及び出席理事代表は次に記名押印する。

平成20年5月19日

社団法人 福島県放射線技師会

議長	会員	幕田 節男
同	会員	佐藤 靖芳
議事録署名人	会員	中里 史郎
同	会員	本間 妙
出席理事代表	会長	片倉 俊彦



第61回福島県放射線技師会総会開催される

平成20年度の第61回福島県放射線技師会総会が、平成20年5月17日県南支部の担当のもと磐梯熱海温泉“清稜山倶楽部”で開かれた。総会に先立ち恒例となった学術委員会分科会活動内容発表会が行われ、新里学術担当理事の司会で各委員会から活動の内容が紹介された。今回の特別講演は「サタふく・自転車でGO」の蘭草英己先生である、テレビで顔なじみのアナウンサーだけに会場には技師会関係者以外の参加者もみられた。

自転車GOの取材を通して感じたことを『歩き・感じ・伝えるために』と題して、熱い思いを話していただいた。テレビという媒体を通して視聴者に気持ちを伝えることの難しさや楽しさ、時折出くわす意外な感動など画面からだけでは読み取れない、送り手側の苦労や想いが少しでも理解できておもしろかった。是非次回から番組を見てみようと思います。

総会は会長挨拶の後表彰式が行われ、日放学術大会で表彰される30年勤続者の紹介の後、20年の永年勤続表彰が行われた、今年も該当者の参加が少なく、支部長の代理

受賞の姿が目についた。議長に幕田節男氏及び佐藤靖芳氏を選出し議事に入った。総会運営委員長草野義直氏より、本総会は会員総数617名中444名の出席があり、成立する旨の宣言があった。平成19年度の事業報告、決算報告が行われた、その中で馬場担当理事から支部助成金の項目が無くなり、各事業内容に振り分ける決算方法に変えたが、順調に収支された等説明がされた。片倉会長より、平成20年度事業計画案について説明がなされ福島県放射線技師会を公益法人化するための準備を進めていき、講習会等では県放射線技師会として独自の参加の記録を残し、会員としての意識を高めたいとの説明があった。その他の議案で片倉会長から、平成19年秋の叙勲で受勲された会員根本壽男を名誉会員に推戴したいと提案があり、可決承認された。議事は淡々と進行し予定時間内で終了した。総会の後は恒例の情報交換会が行われ、賛助会員を交えて大いに語り合った。担当された県南支部の方々、ご苦労様でした。(八巻)



会員移動(県内移動のみ)

氏名	旧施設名	新施設名
田代 淳子	太田西ノ内病院	太田熱海病院
石井 博	いわき市立常磐病院	いわき市保健所
白岩 武	保健衛生協会いわき	保健衛生協会会津
中村 強	福島県保健衛生協会	保健衛生協会会津
八代 功士	福島県保健衛生協会	保健衛生協会いわき
丹治 孝一	保健衛生協会会津	福島県保健衛生協会
渡辺 繁男	保健衛生協会いわき	保健衛生協会相双
橋本 元秀	保健衛生協会会津	保健衛生協会県南
渡辺 義秋	保健衛生協会県南	福島県保健衛生協会
幡野 勝久	保健衛生協会会津	福島県保健衛生協会
佐々木善之	保健衛生協会相双	保健衛生協会いわき
岡部 郁子	太田西ノ内病院	白河厚生総合病院
新村 一成	農村健診センター	白河厚生総合病院
蛭田妃呂美	白河厚生総合病院	農村健診センター
藤田 悠治	太田西ノ内病院	郡山健康振興財団郡山健康振興財団健康センター
斎藤 由起	太田記念病院	太田西ノ内病院
武田 美紀	太田熱海病院	太田西ノ内病院
海藤佳奈子	大原医療センター	大原総合病院
石井 亮	大原医療センター	大原総合病院
宗田 幸	大原医療センター	大原総合病院
高橋 昌美	大原総合病院	大原医療センター
小林 寿郎	会津総合病院	県立喜多方病院
吉田佳代子	福島第一病院	ホリスティホリスティカ かまた
嶋原 光郎	福島南循環器病院	富士病院
白岩 大輔	入澤泌尿器科内科	会津中央病院
塚田 陽子	寿泉堂総合病院	今泉西病院

支部・便り

浜通支部

平成20年度福島県放射線技師会浜通り支部 総会&学術発表会開催される

去る、平成20年4月26日(土)いわき市新舞子ハイツにおいて、第56回(平成20年度)社団法人福島県放射線技師会浜通り支部総会&学術発表会が行われた。14:00より会員4名による学術発表会で幕があけた。〔座長 呉羽総合病院 鈴木規芳氏 1席 いわき市立常磐病院 佐藤尚司氏「肝腫瘍の治療における3D-CTAの検討」 2席 いわき市立総合病院 石川智大氏「骨密度測定装置における被曝線量測管理の検討」 3席 南相馬市立総合病院 佐川保良氏「MDCTにおけるカルシウムスコアの検討」 4席 いわき市立常磐病院 村上光幸氏「マンモグラフィー追加撮影における拡大撮影の有用性についての検討」〕 14:55から総会が始まり、八巻支部長挨拶の後、表彰式に移った。平成20年度の表彰者としては、県会長賞として前浜支部長の本田 規氏に表彰状が授与された。その後、磐城共立病院 田中邦夫氏議長選出の後、正会員156名中、出席35名、委任状82通の過半数で総会成立となった。平成19年度決算、平成20年度予算が全会一致で承認された後、15:45からは、特別講演として富士フィルム(株)メディカルシステム事業部品証薬事部 標準・法規則戦略グループ担当課長 岩田 貴先生による「薬価改善に伴う今後の医療環境について」と題し

て平成20年度診療報酬改定に伴った電子画像管理に代表される厚労省とのやり取りが、内幕も含めて懇切丁寧に説明された。まさに、タイムリーな内容であったために、質問が相次ぎ熱の籠った講演となった。

17:00からは、懇親会が開かれ、元浜支部長の佐藤知好氏の乾杯の音頭で始まり、盛会のうちに全日程を終了した。(鈴木)

会 津 支 部

会津支部総会の開催

平成20年4月26日、福島県放射線技師会会津支部総会が、ホテルニューパレスにおきまして開催されました。

例年、総会に先立って、会津支部会員による研究発表と施設紹介が行われており、今回も、竹田総合病院さんと坂下厚生病院さんから一題ずつの発表があり、県立喜多方病院さんの施設紹介を行われました。

研究発表の後、会津支部総会が引き続き開催されました。今回の本題は、福島県放射線技師会が公益法人になるにあたって、今後の県技師会としての運営がどうなっていくのか、会津支部としてはどういった形で運営をしていくのか、と言う内容でした。その中で一番の問題は、公益法人になったことで支部としての予算運用を明確にしなければならず、また今まで行ってきた講習会や勉強会への助成の仕方なども再考する必要が出てきたことでした。皆さんもご存じの通り、日本放射線技師会と各都道府県技師会という別の法人化がなされてしまいました。これらの件に関しては、どこの県技師会においても議論を重ねて、公益法人たる運営をしていく必要があります。また、診療放射線技師として参加する各講習会・勉強会などにも影響が出てくるかもしれないことと思われ、人ごとではいられない問題となっています。

今年度は、公益法人として運営が始まったばかりで、まだまだ手探りな部分も多く、同じ県技師会員として手を携えて行かなければならないと考えられました。(森谷)

県 南 支 部

県南支部総会開催される

去るH20年4月23日平日に、県南支部総会がビックアイ7階にてPM6:30から開催されました。総会に先立ち学術講演として、福島県放射線管理士部会の菅野修一氏から「診療放射線技師が行う緊急被ばく医療活動とは」との演題で講演を頂き、会場からの多数の質問により予定時間を遙かに超える熱を帯びた講演となりました。

福島県の原発事故を想定した訓練への管理支部会としての参加の様子から、行政機関との関わり、管理士部



会のアピールもかねて講演してもらいました。1) 緊急被ばく医療活動：被ばく医療活動の特徴と基本理念から医療体制まで 2) 福島県原子力防災訓練：年1回行われている訓練の内容・救護所活動・技師の役割について 3) 福島県放射線管理士部会の活動：管理士部会の設立過程から現在の活動状況。

各テーマともかなり踏み込んで話をしてもらい内容の濃いものでした。管理士部会はH12に5名の管理士にて設立され、現在13名にて活動を行っています。防災訓練参加、講習会・フォーラムへの参加、医療放射線利用の啓蒙活動等を行っています。原発立県の福島県としては、原発施設での被曝事故・テロ対策等で放射線専門家としての放射線技師の関わりが、益々その重要度を増して来るのではと思います。県内には100名を超える管理士資格を持っている技師の方がおりますが、管理士部に参加して活動をお願いしたいとの事でした。入会金・年会費必要ありません。連絡先は都路診療所の菅野修一氏が事務局となっております。次に総会に移り、1) H19年度事業報告として、学術・厚生担当から報告がありました。2) H19年度決算報告 3) H19年度監査報告 4) H20年度事業計画案 5) H20年度予算案の説明が順次行われ、報告・計画案とも満場一致で可決されました。

県 北 支 部

平成20年度県北支部総会開催される

去る平成20年4月18日、福島テルサにおいて県北支部総会が開催された。福島医大の村上克彦氏、福島県保健衛生



協会の東延安氏が議長に選出され、資格審査委員より「会員数165名中、委任状を含む出席者が132名」との報告で本総会の有効宣言がなされた。議事は淡々と進行し総会は無事終了した。総会の中で斎藤重夫支部長より「本年度も支部独自の勉強会を積極的に行う事や、市の健康まつりに参加していく等、支部の活発化を図っていきたい」との計画案が発表された。

その後、懇親会が行われ、今回も多く多くの賛助会員の参加もあり和やかな雰囲気の中、親睦が続いていた。今後も支部の活動を活発化するために、会員の皆様の積極的な参加を望みます。

編 集 後 記

医師不足を補うため国は国立大学医学部の増員を決めたようである。救急現場の疲弊、後期高齢者医療制度の問題、療養型病床の削減断念、「骨太の方針」による社会保障費の抑制策の方向転換と今の国の政策には不安を感じる。誰のための何のための医療なのかよく考える必要がある。(鈴木)